

もっと

地域とつながる

よりやさしく進化した放射線治療の魅力とは

手術、抗がん剤治療(化学療法)と並ぶ、がんの三大標準治療の一つである放射線治療。

京大病院では、患者さんによりやさしい放射線治療を目指して、新しい機器の導入を進めています。

放射線治療を受ける患者さんが地域へ帰られるまで、地域と連携して患者さんを支える取り組みをご紹介します。



左から【放射線治療科(医学物理士)】特定助教 平島 英明 【放射線治療科(医師)】准教授 松尾 幸憲 【放射線部(放射線技師)】鶴田 裕輔
【地域ネットワーク医療部】准教授 近藤 祥司

体への負担が少ない放射線治療は「人生100年時代」に最適です

放射線治療は、治療そのものに苦痛がなく、体を傷つけることなく治療ができるため身体的負担が少ないのが魅力です。

昨今は、ご高齢のがん患者さんを多くお見かけします。70代、80代、時には90代の患者さんもおられ、そんな方々にとっては身体機能を温存する放射線治療は、安心でメリットの多い治療法です。最近では、かつて手術で根治したものの、年齢を重ねられるうちに新たながんが発生する例も増えています。そうした場合に「何度も手術するのはちょっと…」と、患者さんご自身が放射線治療を望まれる場面も多くなりました。

放射線が、がんの治療に使われ始めてから100年以上が

経ちます。放射線治療の歩みは、いかに狙った部分に適正な線量を届け、それ以外の部分には当てないかをテーマに進進してきました。近年は、治療装置の飛躍的な進化やコンピューター技術の発達によって精巧な照射が可能になり、放射線治療は急速な進歩を遂げています。京大病院では、患部だけに放射線を当てることに長けた画期的な強度変調放射線治療(IMRT/VMAT)をメインに、全国でも有数の治療実績をあげています。



放射線治療科
准教授
まつお ゆきののり
松尾 幸憲

認定施設しか取り扱えない 高精度放射線治療で高い治療効果

京大病院は、放射線治療装置を数多く有する、全国でも屈指の施設の一つです。そのため、数多くの患者さんに対して、多様で、すみやかな放射線治療をおこなうことができます。

松尾先生が触れられたように、近年は放射線を当てたいところだけに当て、当てたくないところには当てないという理想的な高精度放射線治療が可能になりました。しかしながら、これは難しい技術のため、どこでもできるというわけではありません。数々の要件を踏まえた、認定された施設だけが使える高度な治療法です。本院には、医師だけではなく医学物理士や、診療放射線技師などの専門スタッフが結集しています。専門性が高い職種が連携をとり、協力し合うことで、副作用が少なく、高い治療効果を発揮する高精度放射線治療を患者さんにお届けすることができています。

とりわけ、2020年4月に導入したIMRT特化型リニアックであるHalcyon(ハルシオン)では、1回あたりの照射時間がこれまでに比べて劇的に短縮されました。それによって、患者さんの身体的負担はもとより、心理的負担の軽減にもつながっていると思っています。



放射線治療科
特定助教
ひらしま ひであき
平島 英明

Halcyon(ハルシオン)で治療を体験した患者さんは、皆さん一様に「えっ、もう終わったの?」と驚かれます。特に以前に放射線治療を経験したことのある方ほど、機器の進化に感心されることが多いです。

これまで高度放射線治療をおこなう際、患者さんが治療室に入室してから退出するまで30分では終わらなかったものが、その半分の15分か、場合によっては10分足らずで済んでしまいます。治療にかかる時間が短いうえに、圧迫感のないデザインや静かな動作音、治療台が乗降しやすい高さまで下がるなど、人にやさしいデザイン設計が施されているので、患者さんの精神的ストレスはずいぶん軽減されたと思います。やはり、どんなに初期であっても、がん治療には不安がつきまといま

従来の放射線治療装置では動作音も大きく、機器が動く様子が迫るように見てとれたので、恐怖心のようなものを覚えた方もいたでしょう。それが今では、リラックスして治療していただけるようになったと実感しています。



放射線部
放射線技師
つるた ゆうすけ
鶴田 裕輔

本院への入退院支援だけでなく 外来の患者さんもしっかり支えます

放射線治療科は、放射線治療装置を有さない地域の医療機関や、開業医の先生方からご紹介をいただく件数の多い科です。一般的には、ご紹介をいただいた患者さんは、初診にまず予約を入れていただき、その後、専門医を受診するケースが多いと思います。しかし、本院では地域医療ネットワーク医療部内の地域連携室が、ダイレクトに専門医の先生におつなぎする前方支援をおこなっています。そうすることによって、患者さんは最初から専門医にしっかり相談ができますし、通院の手間を一回減らすことにもつながります。

一方で、入院患者さんや通院患者さんが地域にお戻りになれる際の後方支援もきめ細かくおこなっています。社会の高齢化に伴って、外来の患者さんであっても、治療途中から介護保険の医療サービスの準備や在宅員の相談など、様々な困りごとが発生するようになりました。お一人おひとりの患者さんの困りごとを、柔軟に、迅速に対応できるように、外来専門にも看護師2人と医療ソーシャルワーカー1人が支援をしています。このように、フォローアップの面でも地域としっかり連携が取れるように万全を期していますので、安心して京大病院をご活用いただけたらと思います。



地域ネットワーク医療部
准教授
こんどう ひろし
近藤 祥司